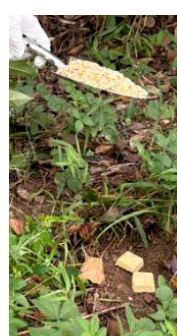


福岡県家畜衛生だより

発行者 公益社団法人福岡県畜産協会
福岡市博多区千代 4 丁目 1 - 27
電話 092-641-8714 FAX 092-642-1276



野生いのししへの豚熱ワクチン緊急散布（令和 7 年 8 月：久留米市、他）

目 次

- ランピースキン病防疫対策要領の変更点と今後の吸血昆虫対策について・・・P1
- 口蹄疫の発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3
- 畜産情勢について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5
- 豚熱対策～野生イノシシの感染が福岡でも拡大・・・・・・・・・・・・P6
- 畜産現場の有効な消毒方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P8
- 馬インフルエンザの発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P10
- 鳥インフルエンザ対策パッケージについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P11
- 哺乳類への高病原性鳥インフルエンザウイルスの感染について・・・・・・・・P13
- 豚熱ウイルスの拡散防止にご協力をお願いします・・・・・・・・・・・・P15
- みんなのくらしと地方競馬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P16
- 毎月 20 日は「ふくおか一斉消毒の日」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P17
- 国産の牛乳、お肉、卵を食べてまもろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P18
- 飼養衛生管理を順守し衛生管理を徹底しましょう!! ・・・・・・・・・・・・P19

ランピースキン病防疫対策要領の変更点と今後の吸血昆虫対策について

福岡県両筑家畜保健衛生所

令和6年11月から令和7年1月にかけて本県で発生したランピースキン病は、国内初の発生であったことから、国が定めた防疫対策要領に基づき対策を行いましたが、様々な対策で混乱を引き起こしたことは記憶に新しい所です。

この発生を踏まえ、国は、防疫対策要領の改正を行いました。今回は、その改正の概要を説明するとともに、今秋以降の吸血昆虫対策についてまとめます。

1 防疫対策要領改正に伴う変更点

令和7年7月28日に家畜伝染病予防法に基づく政令が施行され、ランピースキン病対策要領が改正されました。この改正により、ランピースキン病が発生した農場における対応が以下の通り変更となりました。

(1) 自主淘汰→殺処分

これまではランピースキン病の発生が確認された場合、発症牛及び疑症牛について、自主淘汰をお願いしていましたが、今回の改正により殺処分に変更となります。本病の患畜および疑似患畜が殺処分の対象となり、患畜においては評価額の1/3、疑似患畜においては4/5が手当金の対象となります。

※患 畜：ウイルスが分離された牛等

疑似患畜：遺伝子検査により陽性となった牛等

(2) 移動自粛→移動制限

対象牛の殺処分完了後、同居牛は28日間の移動制限となり、その後に家畜保健衛生所の職員が実施する臨床検査で陰性が確認された場合に移動制限は解除となります。発生農場では、患畜を速やかに隔離するとともに、本病を疑う症状が確認された同居牛について

も、他の同居牛と接触しないよう対応をしてください。

(3) 生乳の出荷自粛→汚染物品扱い

本病陽性となった牛の生乳は汚染物品となります。発生の際には、家畜保健衛生所の指示のもと処理を行うことになります。その場合には、評価額の4/5が手当金の対象となります。

また、精液についても汚染物品扱いとなります。

(4) 周辺農場への対応

発生農場を中心とした半径5km以内の周辺農場においてはワクチン接種および移動制限の対象となります（発生状況により範囲が拡大されることもあります）。

ワクチン接種は、原則区域内の全ての牛等（疾病等により接種できない牛等を除く。）が対象となります。

移動制限は、ワクチン接種後21日間経過後に解除となります。また、制限に伴い発生した費用は補償の対象となります。

2 吸血昆虫対策について

ランピースキン病の主要な感染経路はサシバエ等の吸血昆虫による機械的伝播とされており、個体数が多いことと吸血頻度が多いことから、特にサシバエ対策が重要です。



サシバエ全体のうち、成虫が約 20%で残りの約 80%が卵、幼虫又はさなぎの状態にあると言われており、卵、幼虫、及びさなぎを殺虫することがサシバエをコントロールする上で非常に重要です。

サシバエは湿った場所を好み、牛舎内では糞の混じった敷料や堆肥中に産卵をすることから、牛舎の糞をこまめに取り除き、堆肥をよく発酵させることが重要です。加えて、サシバエが産卵し、幼虫が棲息しやすい牛舎壁の隅、牛舎内の溝、ウォーターカップ下、通路のゴムマットの下やその隙間等をよく清掃し、堆肥に IGR 剤を散布することも推奨されます。

また、サシバエは堆肥表層にも産卵するため、切り返しをして堆肥全体に発酵熱を伝えることは卵や幼虫の駆除に効果的であり、加えて、堆肥中のウイルス不活化にも効果があります。

さらに、敷料は全量交換することがサシバエ対策に繋がります。

特に、サシバエは暑さ、寒さに弱く、春先、秋口の比較的涼しい時期に成虫となって活動が活発になることから、冬季、夏季のうちに IGR 剤を用いた幼虫対策を徹底的に行うことが重要です。

成虫対策としては、網目が 6 ミリメートルの薬剤含浸防虫ネット及びハエ取り紙の牛舎への設置、牛舎内の送風、牛体へのイヤータグ型の殺虫蒸散剤の使用、サシバエの休息場所となる牛舎周辺の草刈り等が有効です。

成虫が多く発生した場合には、動力噴霧器を用い、約 5 日間隔で ETB 乳剤の牛体への噴霧や、牛舎外壁及び牛舎周辺の草地に殺虫剤の残留噴霧をすることが有効です。但し、連続的に同一の薬剤を使用することはサシバエによる薬剤抵抗性の獲得を助長しかねないことから推奨されず、作用機序の異なる薬剤を

ローテーションして使用してください。

薬剤の選択については、関係機関へご相談ください。

さらに、農場に立入る車両は、車両に迷入した吸血昆虫を偶発的に拡散させる可能性があるため、農場への入退場時に車両内に殺虫剤を噴霧する等の成虫拡散防止対策を行ってください。

発生農場と共通の飼養器具や発生農場周辺で生産された牧草ロール等（ラップの穴からハエが迷入することがある）の資材を介してサシバエが持ち込まれる可能性があるため、必要に応じてこれら資材や、牧草ロールの外装を殺虫することも効果的です。

これまでの事例では、発生地域から約 35km 離れた農場において発生が確認されています。

本病ウイルスを保持したサシバエがこれほど長距離を飛翔する可能性は高くないため、車両等に迷入したサシバエによる拡大が疑われています。発生農場周辺地域からの資材や車両等については、殺虫剤等を噴霧するようにしてください。さらに、発生農場周辺地域に所在する農場と同様に、日頃から防虫ネットやイヤータグを使用してください。

これらの取組は、本病対策としてのみならず、サシバエによる直接的な牛の損耗防止や牛伝染性リンパ腫（EBL）等の感染症の拡大防止にもつながるものであり、個々の農場で行うよりも地域一帯で実施することがより効果的です。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



口蹄疫の発生状況

福岡県筑後家畜保健衛生所

1 概況

現在日本で口蹄疫の発生はなく、ワクチン非接種口蹄疫清浄国として認定されています。清浄国と認定されているのは現在 67 か国（ワクチン非接種 65 か国、ワクチン接種 2 か国）で、それ以外の世界各地で口蹄疫が発生しています。特にアジア周辺諸国においては流行が継続していますが（表 1）、今年に入り、清浄国であった欧州の 3 か国や、ワクチン接種を行っている韓国でも発生が確認されたことから、国内に侵入するリスクは極めて高い状態です。

2 韓国における口蹄疫発生状況

2025 年 3 月に 1 年 10 か月ぶりに口蹄疫の発生が確認され、3 月に牛で 14 件、4 月に豚で 5 件、計 19 件の発生がありました（図 1）。

過去の事例（2000 年、2010 年）では、韓国での発生の後に日本でも発生が確認されており、引き続き予断を許さない状況です。

3 畜産農家の皆様へ

動物検疫所では水際対策を強化していますが、地理的にも近く、人的交流の多い韓国での発生を踏まえ、農場での発生予防の徹底をお願いします。

- ① 農場の出入口に看板を設置するなどにより、関係者以外の立入を制限しましょう。
- ② 農場の出入り時は、専用の靴・衣服を着用し、手指および持ち込む物品や出入りする車両の消毒を徹底しましょう。
- ③ 畜舎の出入口に専用の靴の着用や踏込消毒槽等を設置することにより、出入りする人の靴底の消毒を徹底しましょう。
- ④ 従業員の方も含め、口蹄疫が発生している国への渡航は可能な限り控えるとともに、これらの国からの郵便物等は衛生管理区域に持ち込まないようにしましょう。
- ⑤ 毎日飼養家畜の健康観察を行い、疑わしい症状があれば直ぐに通報しましょう（表 2 及び図 2 参照）。

表 1 アジアにおける口蹄疫の発生状況（2025 年 4 月 15 日現在、農水省 HP より）

発生国	発生件数(2019 年～2025 年)							計
	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
中国	6	4	—	1	4	3	2	20
韓国	3	—	—	—	11	—	19	33
タイ	191	203	47	108	15	2	—	566
インド	132	88	105	103	49	—	—	477
ネパール	106	23	40	66	34	36	—	305
スリランカ	81	42	36	67	1	—	—	227
ベトナム	23	63	32	17	25	44	—	204
マレーシア	35	51	21	28	8	15	—	158
カンボジア	33	—	41	24	16	—	12	126

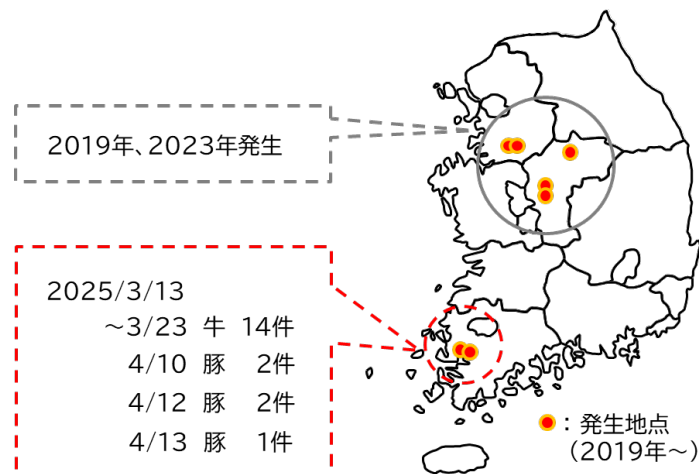


図 1 韓国における発生報告状況（2019 年～、農水省 HP より）

表 2 口蹄疫の特定症状（1～3 のいずれかの症状があれば通報）

	症状（対象家畜：牛、水牛、鹿、めん羊、山羊、豚及びいのしし）
1	以下の症状全てを呈していること（鹿は①、③） ① 39℃以上の発熱 ② 泡沫性流涎、跛行、起立不能、泌乳量低下または泌乳停止のいずれか ③ 口腔内等(※1)に水疱等(※2)がある ※1 口腔内、口唇、鼻腔内、鼻部、蹄部、乳頭又は乳房 ※2 水疱、びらん、潰瘍又は癒痕
2	同一の畜房（畜舎）内で口腔内等に水疱等を呈する家畜が複数頭存在
3	一つの畜房内で半数以上の哺乳畜が二日間で死亡 （単飼の場合、同一畜舎内で隣接する畜房の哺乳畜複数頭）



図 2 口蹄疫の症状（農水省 HP より）

畜産情勢について

全国農業協同組合連合会福岡県本部

1 牛肉情勢

7月の相場は、例年より早い梅雨明けとなり各地で猛暑日が記録されるなど、昨年同様に暑い夏が見込まれることや、消費者の節約志向から需要の減退が想定されるものの、和牛は出荷頭数が減少する見込みのため、相場は横ばいが見込まれる。交雑牛は、和牛代替需要が堅調なことから強含みを見込む。一方、乳牛去勢は、輸入牛肉代替需要は根強いものの、和牛・交雑同様に需要の減退が想定され、横ばいが見込まれる。

2 豚肉情勢

7月の相場は、消費者の節約志向が継続することが見込まれるものの、例年より早い梅雨明けにより各地で猛暑日を記録するなどの影響により肉豚生育の遅れが予想されることなどから需給が引き締まり、強含みで推移すると見込まれる。

3 鶏卵情勢

7月の相場は、九州が6月末で梅雨明けし、一気に夏本番の気候となり、サイズバランスは大玉が減少し小玉の割合が増加したため、まちまち(大玉高、中玉以下下押し)の相場展開となった。需要面では量販筋・業務筋の定番発注はやや鈍化しつつあるものの、加工筋において先送りにしていた凍結卵製造の再開等、一定程度集荷意欲は継続する見込みであり、産地在庫にさほど余力は無い状況が続く見込みである。

一方、気温の上昇で消費意欲の低下や需要の減少が加速する恐れもあり、先行き不透明な状況である。今後の相場については引き続き大玉在庫減少によるサイズ間調整の展開が予想される。

4 飼料情勢

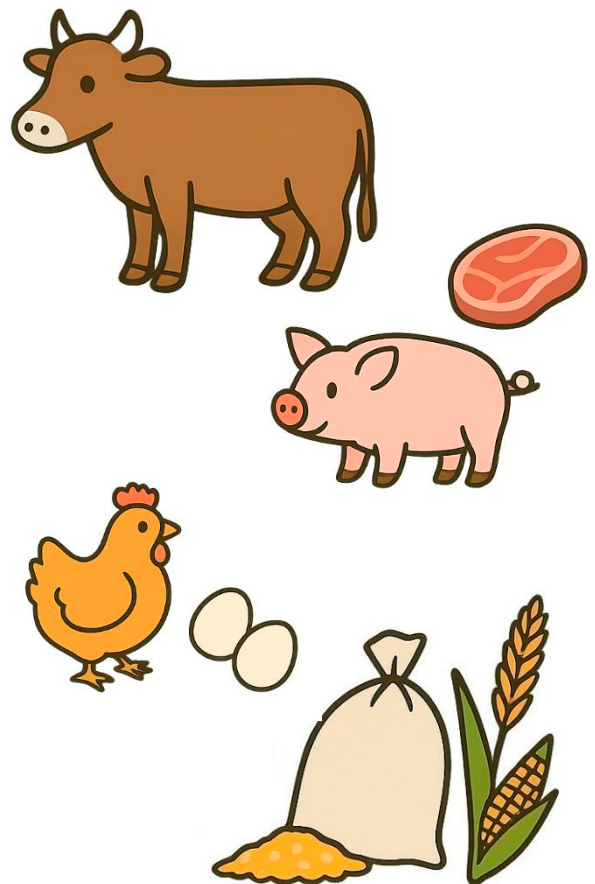
シカゴ定期とうもろこし相場は、下落している。4月中旬以降は上昇がみられたものの、米国中西部の好天予報と南米の豊作期待から軟調に推移した。直近も米国中西部の好

天予報を受け、更なる下落となっている。

シカゴ定期大豆粕相場は、下落している。4月中旬以降は上下動しながらも下落し、6月は米国の好天予報や米中の貿易摩擦の動向に左右され上下を繰り返しながら、横ばいに推移した。直近は米国中西部の好天予報を受け、下落となっている。

海上運賃は、燃料代は軟化したものの、傭船料が堅調に推移したため、6月中旬対比でやや上昇した。原油相場は、イスラエルとイランの停戦同意を受けて、軟調に推移した。傭船料は、南米産とうもろこしの輸出開始を受けて堅調に推移した。

ドル円相場は、わずかに円安傾向となっている。



豚熱対策～野生イノシシの感染が福岡でも拡大

農林水産部畜産課

1 豚熱とは

豚熱ウイルスによって引き起こされる豚やイノシシの熱性伝染病で、強い伝染力と高い致死率が特徴です。感染した豚は、唾液・涙・糞尿中にウイルスを排泄し、感染豚や汚染された物品などとの接触を通じて感染が拡大します。

治療法はなく、発生した場合の養豚業界への影響は甚大であるため、家畜伝染病予防法により家畜伝染病に指定されています。

なお、アフリカ豚熱とは全く異なる病気ですので、混同しないよう注意が必要です。

2 これまでの野生イノシシの感染確認状況

平成 30 年 9 月、岐阜県の飼養豚で国内 26 年ぶりに豚熱の感染が確認されました。その後、野生イノシシでも感染が確認され、野生イノシシの感染拡大とともに、全国的に農場でも感染が拡大していきました。

平成 31 年 3 月には岐阜県および愛知県で経口ワクチンの散布が開始され、九州地域でも、令和 6 年 6 月に佐賀県、令和 7 年 2 月に長崎県、4 月に宮崎県の野生イノシシで豚熱が確認されたことを受け、経口ワクチンを散布しています。

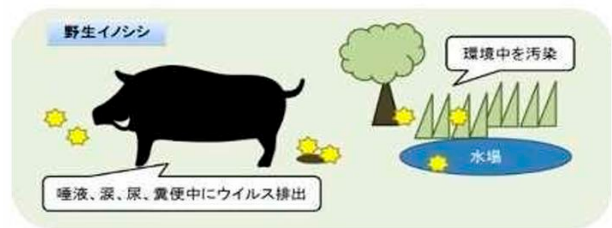
3 福岡県での発生状況

令和 7 年 8 月 19 日、久留米市で県内初となる野生イノシシの豚熱陽性個体が確認されました。その後、8 月 26 日に 2 例目、9 月 1 日にはうきは市で 3 例目、9 月 5 日には再び久留米市で 4 例目が確認されています（※9 月 5 日現在）。

県内では、経口ワクチンの緊急散布を実施するとともに、養豚農家に対しては衛生管理の徹底と適時・適切なワクチン接種の実施と、野生動物の侵入防止対策の確認を呼びかけています。

4 ウイルスが存在するおそれのある場所

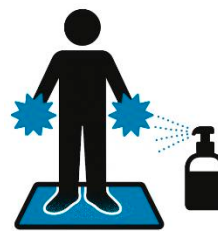
感染イノシシが確認された地点から半径 10km 圏内が「感染確認区域」とされ、特に注意が必要です。感染したイノシシは、糞便中などにウイルスを排出し、環境中（土壌、植物など）を汚染します。環境中が汚染された山に人が入ると、豚熱ウイルスを拡散する恐れがあります。



5 いつ、何をすればいいの？

山に入った際は、手や靴底などの「洗浄」および「消毒」を念入りに行いましょう。

また、農場（衛生管理区域）に入る際には、専用の衣服や靴に着替えることを習慣づけ、ウイルスを絶対に持ち込まないようにしましょう。



6 豚熱ワクチン接種農場における飼養衛生管理の重要性

ワクチン接種による免疫の獲得は、接種した豚の体調や、母豚から子豚への移行抗体等の影響を受けるため、適時・適切なワクチン接種が重要です。

全国的には、ワクチン接種農場においても豚熱の発生が続いていることから、豚熱ウイルスの農場への侵入を防ぐためには、飼養衛生管理の徹底と、豚に異常が見られた場合の早期通報が必要不可欠です。

7 農場における発生予防対策のポイント

① 人・物・車両によるウイルスの持ち込み防止：衛生管理区域や豚舎への出入り時には、洗浄・消毒を徹底しましょう。衛生管理区域専用の衣服・靴を設置し、必ず着用することを習慣づけることが重要です。また、人や物の出入りは記録を残し、管理を徹底しましょう。飼料に肉が含まれる、または含まれる可能性がある場合は、攪拌しながら摂氏90度以上で60分以上の加熱処理を行いましょう。

② 野生動物対策：防護柵の設置などにより、野生動物の侵入を防止しましょう。飼料保管場所などには、ねずみなどの排せつ物が混入しないよう管理を徹底してください。豚舎周囲は常に清掃・整理整頓を心がけましょう。死亡家畜は、野生動物に荒らされないよう適切に保管し、速やかに処理しましょう。

8 福岡県鳥獣被害対策システムについて

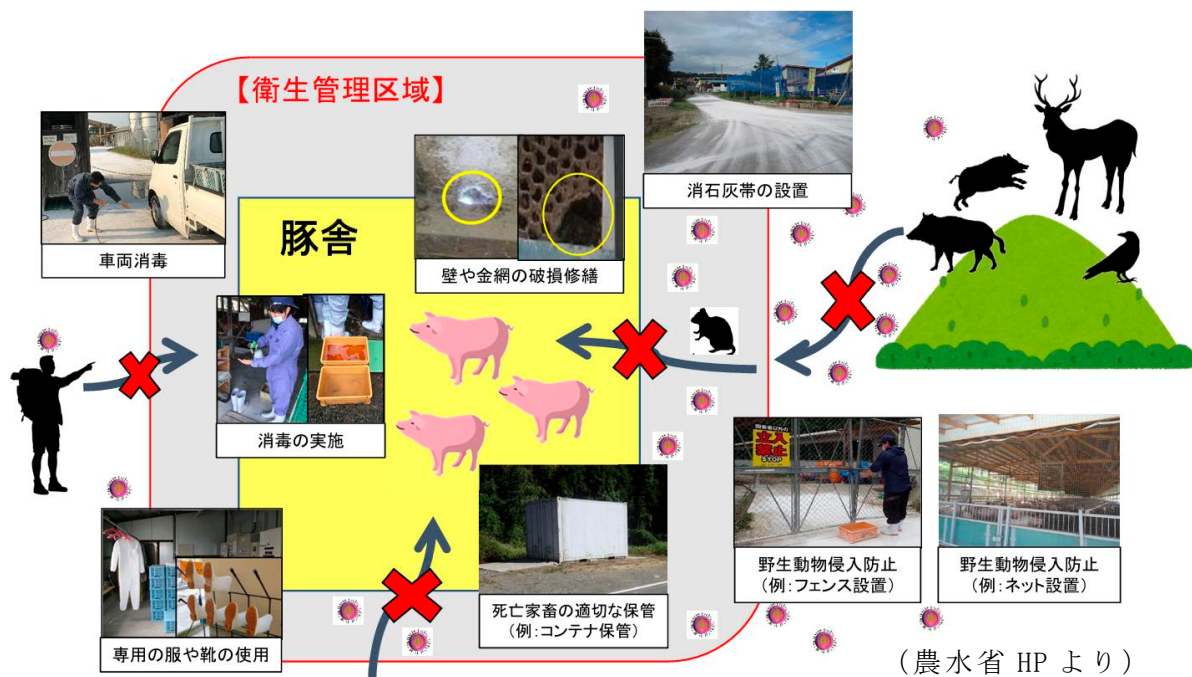
福岡県では、イノシシ・シカ・サルなどの有害鳥獣による農林水産物の被害や、市街地での人的被害を防ぐため、令和7年1月14日から「福岡県鳥獣被害対策システム」の運用を開始しました。

このシステムでは、野生鳥獣を目撃したり被害にあった方が目撃・被害情報投稿アプリに情報を登録し、有害鳥獣の行動域を可視化することで、効率的な被害軽減対策の実施や注意喚起に役立てることができます。皆様からの目撃・被害情報の投稿が、被害の軽減につながりますので、ぜひ積極的にご活用ください。

アプリ ↓



システム ↓



畜産現場の有効な消毒方法

福岡県北部家畜保健衛生所

●畜産分野における「消毒」

畜産現場における消毒とは、家畜の健康を脅かす病原体（細菌、ウイルス、寄生虫など）の数を、病気が広まらない程度にまで減らすことです。病原体の数を大きく減らすことで、感染症のリスクを大幅に下げることができます。

目に見えない病原体は、家畜の糞便、泥、ホコリ、飼料、さらには人や車両の動きなどを介して農場内を容易に広がり、病気の発生や蔓延の原因となります。消毒を効果的に行うためには、まず物理的な汚れ（糞便、泥、飼料残渣など）を徹底的に清掃することが最も重要です。なぜなら、汚れや有機物が残っていると、消毒薬の効果は著しく低下してしまうからです。その上で、適切な種類の消毒薬を使用することが効果的です。

●消毒薬の種類と病原体への効果

すべての消毒薬が、あらゆる病原体に効くわけではありません。病原体によって、「不活化されやすいもの」と「されにくいもの」があります。一般的に、マイコプラズマやほとんどの細菌（グラム陽性菌、グラム陰性菌）は、多くの消毒薬で比較的簡単に不活化されます。一方で、ウイルスは種類によって消毒薬への抵抗性が大きく異なります。例えば、新型コロナウイルスのように「エンベロープ」という膜を持つウイルスは、アルコール消毒がよく効きます。しかし、エンベロープを持たないウイルス（口蹄疫ウイルスなど）には、アルコールは効果がありません。

畜産現場で頻繁に用いられる代表的な消毒薬の種類と、それぞれの特徴をご紹介します。

①逆性石けん（例：アストップ、パコマなど）：金属への腐食性が低く、日常的に使い

やすいのが特徴です。エンベロープを持つウイルスに有効で、有機物にも比較的強い耐性を示しますが、エンベロープを持たないウイルスや一部の細菌には効果がありません。車両消毒や踏み込み消毒、日常的な畜舎内消毒に適しています。

②塩素系消毒薬（例：クレンテなど）：広範囲の病原体に強力な速効性があり、飲水消毒も可能ですが、人や金属への刺激・腐食性が高く、紫外線や有機物には弱いため、使用環境に注意が必要です。清掃後の器具消毒や緊急消毒など、有機物が少なく日光の当たらない場所での使用がより効果的です。

③複合次亜塩素酸（例：ビルコンなど）：広範囲の病原体に強力な効果を持ちながら、比較的腐食性が低いのが特徴です。有機物への耐性も一般的な次亜塩素酸より優れていますが、費用はやや高めで刺激臭があります。伝染病発生時の緊急消毒や大規模な空舎消毒など、効果を重視する場面で選ばれます。

④オルソ剤（例：トライキルなど）：消毒効果に加えてハエの幼虫（ウジ）やコクシジウムにも有効な特殊なタイプです。消臭効果もありますが、紫外線、凍結、有機物に弱く、排水規制や人・環境への刺激性も考慮が必要です。

⑤アルデヒド系消毒薬（例：グルタプラスなど）：細菌からウイルス、真菌、さらには芽胞まで、非常に広範囲の病原体に強力な効果を発揮します。金属などを腐食させにくい利点がありますが、劇物指定されているため毒性や刺激が強く、取り扱いには厳重な注意が必要で、費用も高めです。主に伝染病発生時の緊急消毒や畜舎の徹底的な空舎消毒に用いられます。

●消毒効果を高める「組み合わせ技」

このように、様々な種類の消毒薬はそれぞれ独自の特性を持っています。しかし、畜産現場では多様な病原体に対応する必要があるため、一つの消毒薬だけで全ての課題を解決するのは困難です。例えば、冬の低温環境や糞尿などの有機物が多い場所では、単一の消毒薬では十分な効果が得られないことも少なくありません。

例えば、畜産現場で広く使われている逆性石けんは、腐食性が低く日常使いに便利である一方、低温下や多量の有機物存在下で効果が著しく低下すること、また、効果が限られた病原体にしか及ばないという弱点があります。

これらの課題を克服し、逆性石けんの消毒効果を大幅に高める画期的な方法として近年注目されているのが、「マイクロミックス法」です。この方法は、逆性石けんの弱点を補い、広範囲の病原体への効果と、低温下や有機物存在下での安定した殺菌力を実現するもので、特に逆性石けんと水酸化カルシウムの組み合わせがその代表例として注目されています。

●マイクロミックス法

逆性石けんの希釈液 1 リットルに対し、約

2.0g の水酸化カルシウム（平均粒子径 $10\mu\text{m}$ 以下の細かなもの）を加えて混ぜることで、低温下や有機物が混入した状況でも効果を維持・増強できます。

さらに、この組み合わせは、単体では効果がなかったエンベロープを持たないウイルスに対しても、強アルカリの作用で不活化効果を示すことが分かっています。また、混合液は作り置きしても 1 週間以上効果を持続できることが分かっており、現場での使用にも適しています。

ただし、注意点として、カーゲートの噴霧装置や畜舎の細霧装置など、長い配管がある装置でこの混合液を使うと、配管内に溜まっていたヘドロが剥がれてノズルを詰まらせることがあります。その際は、一度ノズルを外して清掃すれば解決します。

●終わりに

普段から病原体の特性と消毒薬の種類を理解し、適切な清掃と効果的な消毒薬の組み合わせを用いることで、日々の予防と緊急時の対応の両面で、農場を守ることができます。常に新しい情報を学び、疑問があれば家畜保健衛生所などに相談しながら、賢い消毒で、大切な家畜の健康を守っていきましょう。

表 1：マイクロミックス法の実例

混合液の作り方	夏場 1000 倍希釈	秋から春 500 倍希釈
逆性石鹸	200ml	400ml
マイクロ水酸化カルシウム (0.2%作成の場合)	400 g	400g
水	200 L	200L

(公社) 畜産技術
協会で動画公開



(参考) 500ml のプラスチックビーカーにマイクロ水酸化カルシウム（粉）を 360ml くらいまで入れると 200g となります。

(注意) 棒などでよく混合しても、多少白い沈殿は残ります。動力噴霧器などを使う際は、大きな塊を吸い込まないように、取り込み口にフィルターを付ける等の対策を行いましょう。

馬インフルエンザの発生状況

福岡県中央家畜保健衛生所

1 馬インフルエンザとは

2025 年 4 月 8 日、熊本県の重種馬飼養農場 3 戸において馬インフルエンザの発生が確認されました。我が国では長期間発生が確認されておらず、今回の発生は 17 年ぶりの発生となります。馬インフルエンザは、馬の呼吸器系に影響を及ぼすウイルス性の伝染病で、A 型インフルエンザウイルス（主に H3N8 亜型）によって引き起こされます。症状としては、高熱（39～41℃）、乾性の咳、水様性の鼻水、元気消失、食欲不振が報告されています。感染馬の多くは 2～3 週間で回復に至りますが、子馬、高齢馬、基礎疾患を持つ馬では重症化する事例も報告されています。また、馬インフルエンザウイルスは飛沫を介して伝播し、短期間で感染が拡大する場合があります。

2 世界での馬インフルエンザの発生

H3N8 亜型は 1963 年にアメリカで初めて分離されて以来、世界の多くの国で流行しています。1989 年には中国で約 30,000 頭の馬が H3N8 に感染し、数百頭が死亡した事例が報告されています。また、2003 年にはイギリスで大規模な流行が発生し、アメリカから移動してきた馬が感染源となったと分析されています。過去の事例から、国際的な馬の移動がウイルス伝播に影響することが報告されています。

3 国内での馬インフルエンザの発生

本病は国内で過去に 2 度の流行が記録されています。1971 年から 1972 年にかけては競走馬や乗用馬を中心に発生が確認されました。次に、2007 年から 2008 年には、33 都道府県で合計 2,512 頭の馬について発生届出（疑症を含む）が報告され、広範囲にわたる流行となりました。これ以降、国内では新たな発生は確認されていませんでした。2025 年

4 月 8 日の熊本県での発生後、4 月 25 日には北海道帯広市のばんえい競馬場でも発生が確認されました。5 月 8 日時点の報告では、熊本県で 23 頭（3 市 3 郡 8 農場）、北海道で 13 頭（2 市町 3 農場）の感染が確認されています。JRA 競走馬総合研究所による遺伝子解析の結果、熊本県と北海道で検出されたウイルスは同一タイプであり、北米由来の H3N8 亜型に近縁であると判明しました。今回の国内発生は、馬の移動に伴ってウイルスが国内に持ち込まれ、それが伝播した可能性が指摘されています。

4 防疫対策

馬インフルエンザの発生に伴う防疫対策として次のような措置が求められています。

①馬飼養農場における発生予防

- ・ワクチン接種が感染防御に有効であり、不活化ワクチンの定期的な接種により発生予防を図る

表 1. 軽種馬防疫協議会が推奨するワクチンプログラム

1 歳				2 歳		3 歳以降	
1-3 月	5-6 月	11 月頃	5-6 月	11 月頃	5-6 月	11 月頃	
基礎	基礎	補強	補強	補強	補強	補強	補強

*基礎免疫（2 回接種）：4 週間以上の間隔を空けて 2 回接種する。

②感染馬の早期発見

- ・健康観察を徹底し、異常がある場合は直ちに獣医師に連絡する
- ・獣医師は、本病が疑われる場合または陽性を確認した場合は速やかに家畜保健衛生所に連絡する

③感染拡大の防止

- ・感染馬の隔離、同居馬の移動自粛、厩舎及び器具等の消毒を徹底する
- ・人の移動に伴う伝播を防止するため、馬の飼養管理を行う者、運搬する者の衛生対策を徹底する。

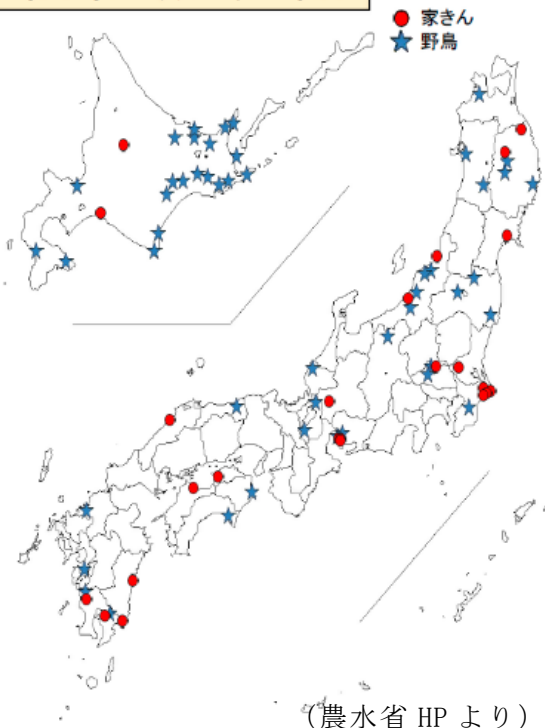
鳥インフルエンザ対策パッケージについて

福岡県中央家畜保健衛生所

1 令和 6 年シーズンの鳥インフルエンザの発生状況

令和 6 年シーズンは、令和 6 年 10 月 17 日に北海道の肉用鶏農場で最初の発生が確認されて以降、令和 7 年 2 月 1 日までに 14 道県で 51 件の発生事例が確認されました。これにより、約 932 万羽の鶏が殺処分の対象となりました。特に、例年トップシーズンとなる 1 月には、5 県 34 件の発生により約 648 万羽の殺処分を記録しました。これは、1 月としては過去最多の発生件数及び殺処分羽数であり、過去最大の発生であった令和 4 年シーズンに匹敵するペースでの発生が認められました。発生が集中した愛知県、岩手県、千葉県では、農場が密集する地域で短期間に連続して確認されたほか、9 件の再発事例が確認さ

令和 6 年シーズンの発生状況



れており、うち 1 件は 3 度目の発生となりました。加えて、20 万羽以上を飼養する採卵鶏農場で 16 件確認されており、鳥インフルエンザ対策の強化が喫緊の課題であることが認識されています。

2 鳥インフルエンザ対策パッケージ

(1)疫学検討から示された課題

これまでも鳥インフルエンザに対して様々な対策が講じられてきましたが、近年その発生は深刻さを増しています。専門家による令和 6 年シーズンの発生に関する疫学検討の結果、以下の見解が示されました。

①地域の連続発生への的確な対処の必要性：

特に養鶏場が集中している地域での連続発生が認められ、地域全体で一体となった対策が不可欠である。

②殺処分による影響の軽減：

発生時の殺処分は感染拡大防止に重要であるものの、養鶏農家への経済的・精神的負担が大きいため、その影響を軽減する対策の検討が必要である。

(2)対策パッケージの 4 つの柱

これらの課題を受け、農林水産省は「鳥インフルエンザ対策パッケージ」を策定し、来るシーズンに向けた詳細な検討を進めています。本対策パッケージは、主に下記に示すⅠ～Ⅳの 4 つの柱で構成されています。

Ⅰ. 飼養衛生管理の強化

①地域一体の対策

- ・養鶏密集地域及び過去発生地域の指定：
鳥インフルエンザ発生リスクの高い地域

や、過去に発生が確認された地域をあらかじめ指定し、当該地域における対策を強化する。

・野鳥対策の強化：

鳥インフルエンザが野鳥を介して伝播する可能性を考慮し、地域全体で野鳥の侵入防止策を強化する。

②飼養衛生管理基準より一段踏み込んだ対策感染拡大の一因とされる鶏舎内の塵埃対策を強化するため、フィルター、細霧装置、不織布の設置等、より厳格な対策を飼養衛生管理基準に位置付ける。

③再発農家への改善確認及び手当金見直し
過去に鳥インフルエンザが発生した農家に対しては、改善状況を厳しく確認し、飼養衛生管理が不十分であった場合は、手当金を減額する。

④指導に従わない農家への対応強化
指導に従わない農家に対しては、法的措置を含め、より実効性のある指導及び勧告を実施する。

⑤飼養衛生管理基準の段階評価の導入

Ⅱ. 分割管理の推進

大規模養鶏場においては、鶏舎を複数の区画に分けて管理する「分割管理」の導入を推進します。

①分割管理の基準化

分割管理の実施に関する対応について、法律に基づく飼養衛生管理基準に明確に位置付ける。

②大規模農家への義務付け

20万羽以上の鶏を飼養する大規模養鶏場には、分割管理の検討を義務付ける。

③導入の促進

一定の衛生管理と経過観察を条件に、分割管理の運用を見直し、導入を促進することで、鳥インフルエンザ発生時の殺処分対象

羽数を削減し、被害を最小限に抑えることを目指す。

Ⅲ. ワクチン接種の検討

効果の高い新技術ワクチンの開発や欧米の状況を踏まえ、予防的ワクチン接種の導入に向けた検討を開始する。

Ⅳ. まん延防止に向けた防疫措置の見直し

防疫措置の迅速化及び効率化を図るため、民間事業者も防疫作業に参加できるよう、事業者のリスト化、研修の実施、事前の協議等を促進する。

3 飼養衛生管理基準の見直し

農林水産省は「鳥インフルエンザ対策パッケージ」を推進するため、養鶏密集地域及び過去発生地域における地域一体となった野鳥対策や20万羽以上飼養する大規模養鶏場における分割管理に取り組む場合の対応等を盛り込んだ飼養衛生管理基準へ見直すこととしています。

高病原性鳥インフルエンザ
発生予防のポイント



01 農場に入る全ての人・車両・物品は衛生対策
作業員や外部事業者等を含め、衛生管理区域と家きん舎に入る人は衛生対策を徹底。車両も入場前の洗浄・消毒を必ず実施。物品は原則農場専用。やむを得ず持ち込む場合は洗浄・消毒を忘れない。
⚠️ 周囲にはウイルスがあると認識。農場内・家きん舎内には入れない。

02 衛生管理区域・家きん舎ごとに専用の長靴を着用
農場に入るとき、家きん舎に入るときは、必ず衛生的な長靴に交換。農場内では専用の衣服を着用。
⚠️ 着替え・履き替えの前後で交差しないよう境界を明確に。

03 ウイルスを媒介する野生動物の侵入防止対策
家きん舎は定期点検し、防鳥ネットや壁等の破損などはすぐに修繕。目の届きにくい屋根裏や入気口も注意が必要。
⚠️ 「農場に近寄らせない」「農場内に入れない」「ネズミ・ハエ等の定期的な駆除」



(農水省 HP より)

哺乳類への高病原性鳥インフルエンザウイルスの感染について

福岡県北部家畜保健衛生所

最近では毎年のように高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が猛威を振るい、2024-2025年シーズンは14道県51事例932万羽が殺処分されました（図1）。

現在流行しているウイルス株の起源は、1996年に広東省で出現した H5N1 とされており、国内では 2004 年に 79 年ぶりに発生しました。本来は主に家きんの疾病と考えられていた HPAI ですが、流行の過程において、様々な動物種に感染するようになってきています。

HPAI ウイルスは A 型インフルエンザウイルスに分類され、この A 型インフルエンザウイルスに属するウイルスは、幅広い動物種を宿主にしています。HPAI ウイルスは比較的種特異性が高いため、一般的には種を越えた感染はないとされてきました。ただし、非常に大量のウイルスと接触する機会（濃厚接触）がある場合は、稀に感染を引き起こすこ



図 1 令和 6 年シーズンの国内発生事例
(農水省 HP より)

とも分かっています。

米国では 2024 年 3 月に HPAI ウイルスの乳牛への感染が確認されました。その原因はウイルス感染した野鳥から乳牛へ伝播し、さらに搾乳作業を介して乳牛から乳牛へ感染が広がったと推察されています。2025 年 8 月現在、17 州 1,078 農場で HPAI ウイルスの感染が確認されています（図 2）。

牛の臨床症状としては、食欲低下、泌乳量減少などで、重症例では粘稠な乳の排泄が確認されています。また 2024 年 1 月以降、HPAI ウイルスに感染した牛と接触した 41 名に感染が確認されましたが、いずれも軽症（結膜炎、咳など）であるとのこと。

2020 年以降、ヒト以外のは乳類における HPAI ウイルスの感染事例数、地域が増加しています。HPAI ウイルスの感染が確認されているのは乳類としては、家畜以外では、海外でアカギツネ、アライグマ、クマ類、アザラシ類、アシカ類、イエネコなどでの事例が報告されており、日本でもこれまでにタヌキ及びキタキツネから HPAI ウイルスが感染していた証拠（抗原）を検出した事例が報告されています。

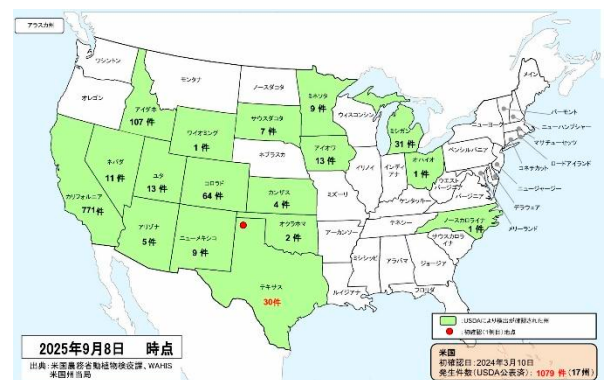


図 2 米国の乳牛における HPAI (H5N1) の発生状況 (農水省 HP より)

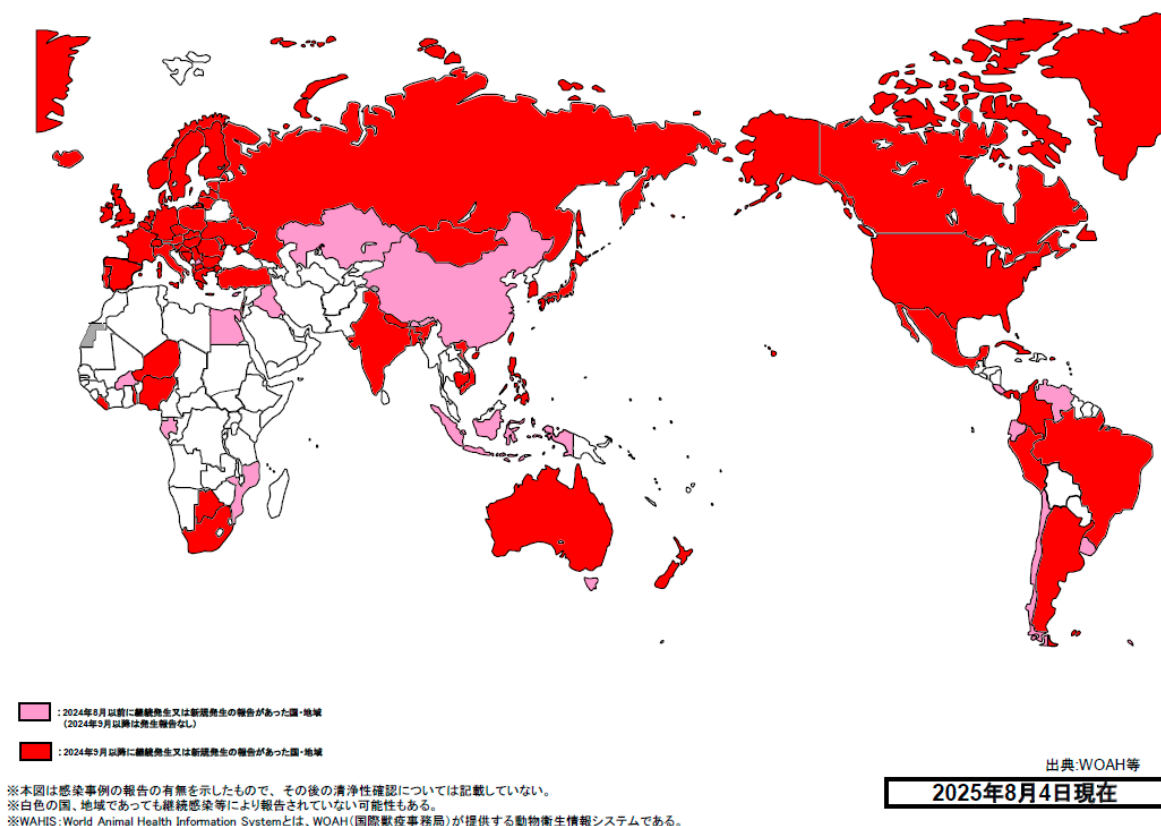
昨シーズンは新たに北海道において、ゼニガタアザラシ及びラッコでの HPAI ウイルスの感染が報告されています。

家畜では 2023-2024 年シーズンに米国で乳牛への感染以外にも、山羊及びアルパカでの HPAI ウイルスの感染事例が報告されています。乳牛については引き続き昨シーズンも発生の報告がされています。また、米国オレゴン州では HPAI ウイルスに感染した非商業用裏庭家さんと共に飼養されていた豚から HPAI ウイルスが検出され、英国においても、HPAI ウイルスに感染した飼養鳥と共に飼養されていためん羊の感染事例が報告されています。いずれの事例も HPAI ウイルスに感染した鳥との濃厚接触により感染が成立したものと推測されます。

このように哺乳類への感染が世界的に毎年のように確認されていることから、今後さらに動物種を超えた感染が広がっていく可能性は十分に考えられ、また米国の事例と同様に国内の乳牛にも HPAI ウイルスが感染し、搾乳を介して他の乳牛やヒトへの感染が広がっていく危険性も十分に考慮しなくてはなりません。家畜伝染病予防法で定められた飼養衛生管理基準を厳格に順守することで、鶏飼養農場に限らず、豚及び牛飼養農場等についても、HPAI ウイルスに感染した野鳥と家畜との、万が一の接触を回避するために、野生動物の侵入防止対策などに万全を期していくようにしなければならないと思われます。

高病原性鳥インフルエンザの発生・感染報告状況(2023年9月以降)

※WAHIS等への報告に基づく最終発生・感染報告日を記載



(農水省 HP より)

山林に立ち入る皆さまへ

豚熱ウイルスの拡散防止に ご協力をお願いします。



野生いのししの中で豚熱という病気が広がっています。
人間に感染することはありませんが、
豚に感染して養豚業に大きな被害を与えます。

買ガール
イラスト：緑山のびろ
©Wobuhiro Midoriyama

ウイルスを山林から持ち帰らないよう、ご協力をお願いします。

1

ウイルスは土にも含まれます。靴の泥は山で落としましょう。

2

いのししを誘引しないよう飲食物は捨てずに持ち帰りましょう。

3

家畜がいる施設に近寄らないようにしましょう。

4

いのししの死体を見つけたら管轄の自治体に連絡して下さい。



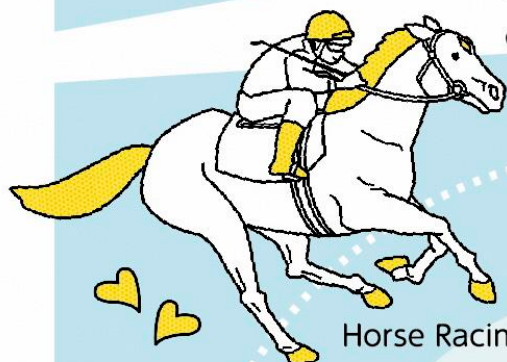
公益社団法人
中央畜産会
JAPAN LIVESTOCK
INDUSTRY ASSOCIATION

農水省 HP

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/consumer.html>



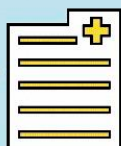
みんなのくらしと 地方競馬



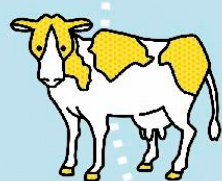
Horse Racing



Welfare
&
Culture

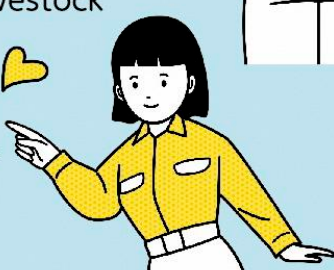
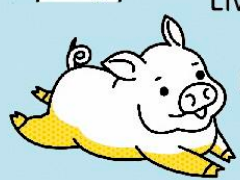


地域とともに 未来へ歩む

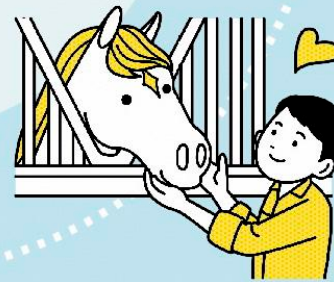


畜産を応援!

Livestock



地域貢献も!



地方競馬の
収益金は、
畜産振興及び
地方財政の改善に
活用されて
います。



GO馬君

NAR 地方競馬全国協会

<http://www.keiba.go.jp/>



毎日どこかで走ってる
あなたのそばに
馬たちのドラマ

口蹄疫、豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等
から家畜を守るために



毎月20日は 「ふくおか一斉消毒の日」

病原体の侵入、疾病のまん延を防止するには、県全体での防疫対策が重要です。

毎月20日は、定期的な消毒に加え、県内一斉消毒に取り組みましょう！

全ての畜産関係者のご理解とご協力をお願いします。

消毒、家畜の病気に関するお問合せ

中央家畜保健衛生所	TEL 092-633-2920
北部家畜保健衛生所	TEL 0948-42-0214
両筑家畜保健衛生所	TEL 0942-30-1037
筑後家畜保健衛生所	TEL 0942-53-2405

家畜の異状の早期発見・早期通報をお願いします。

【 福 岡 県 】

食卓からの、 ありがとう。

私たちがおいしい牛乳やお肉、

卵を食べられるのは、

畜産に携わるすべての人のおかげです。

さまざまな人の努力や想いがあるからこそ、

今日の食卓が豊かになっている。

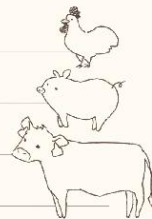
そのことを、私たちは知っています。

おいしい国産の畜産物が、

この先も続いていくように。

豊かな畜産の未来に向かって、

できることを続けます。



国産の牛乳、お肉、卵を
食べてまもう。



地方経済と全国の畜産会組織は日本の畜産を応援しています。
地方経済の基盤の一部は、地域のくらしや畜産の振興に役立てられています。

<https://jlla.ln.gr.jp/tekiseikakaku/>

まもう、豊かな畜産の未来へ

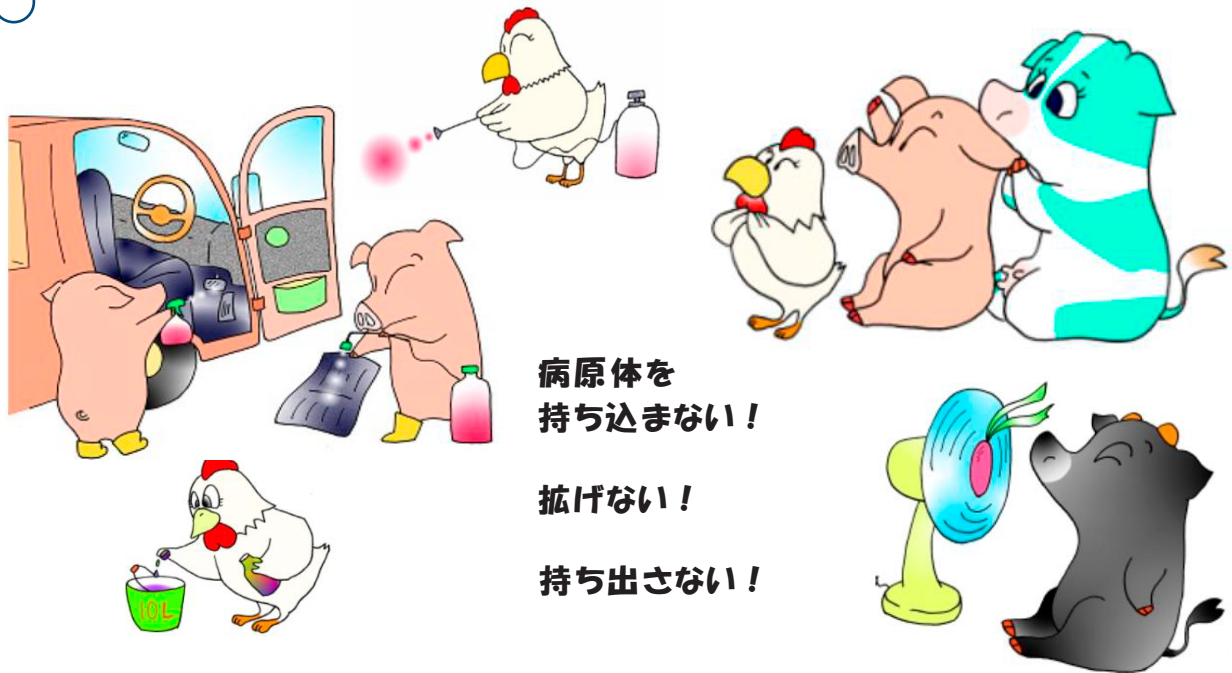
公認世話人

中央畜産会

JAPAN LIVESTOCK
INDUSTRY ASSOCIATION



飼養衛生管理基準を順守し 衛生管理を徹底しましょう！！



家畜衛生情報・ご相談は最寄りの家畜保健衛生所へ

福岡県農林水産部 畜産課	福岡市博多区東公園 7-7	TEL 092-651-1111 FAX 092-643-3517 (内線 3990)
中央家畜保健衛生所	福岡市東区箱崎心頭 4-14-5	TEL 092-633-2920 FAX 092-633-2851
北部家畜保健衛生所	嘉麻市漆生 587-8	TEL 0948-42-0214 FAX 0948-42-1376
両筑家畜保健衛生所	久留米市合川町 1642-1	TEL 0942-30-1037 FAX 0942-35-9198 ~9
筑後家畜保健衛生所	筑後市大字和泉 606-1	TEL 0942-53-2405 FAX 0942-53-2723

【お知らせ】

(公社) 福岡県畜産協会ホームページでは、
「福岡県家畜衛生だより」を掲載しています。
ぜひご覧ください！！

公益社団法人福岡県畜産協会 <https://fukuoka.lin.gr.jp/>

